

不要なパソコンは宅配業者が無料回収

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④7

使わなくなったパソコンや小型家電などの処分で困っていませんか。インターネットやFAXで申し込むと宅配業者が無料回収します。家電は金属が多く含まれる貴重な資源。きちんと分別して、ごみを減らして自然環境を守りましょう。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 ☎88・8933

どんなパソコンでも無料で宅配回収します

市は、小型家電リサイクル法の認定事業者「リネットジャパンリサイクル(株)」と協定を結び、家庭で不要になったパソコンを無料回収します。詳しくは同社の公式サイトを確認してください。



パソコン回収

●**利用方法** ①インターネットかFAX(専用紙のみ)で申し込み②パソコンなどの回収物をダンボールに詰める③宅配業者が希望日時に回収

※FAX専用紙は市生活環境課、大和・三橋庁舎市民サービス課、各コミュニティセンターで配布します。パソコンのデータは各自で消去してください。



●**料金** 無料(パソコンを含むダンボール1箱分=3辺の合計が140cm以内、重さ20kg以内)

※パソコンを含まない小型家電のみの回収のときは1箱につき1650円の費用がかかります。

●**回収品目** モニター、プリンタなどの周辺機器、その他の小型家電(携帯電話、電子レンジなど)
※その他分からないことは、同社のお問い合わせ専用窓口(☎0570・085・800、午前10時～午後5時)へお問い合わせください。

7月の可燃ごみの量

柳川市	みやま市
1181トン	404トン

7月の市内の可燃ごみの量は前年同月に比べ約5%減少。みやま市の可燃ごみの量は前年同月に比べ約21%減少しました。

3～7月の可燃ごみの割合

柳川市	みやま市
74%	26%

ごみ減量
大作戦



ごみ分別アプリ

リサイクルマーケットを開催します

コロナの影響で中止となっていたリサイクルマーケットを3年ぶりに開催します。ごみ減量のため、レジ袋は配布しません。各自でマイバックを用意してください。

- 日時** 9月18日(日)、午前9時～正午
 - 会場** 市民体育館
 - 出店品目** 衣類やバック、ベビー用品、玩具、日用雑貨、贈答品、雑誌、絵本など
 - 出店コマ数** 50コマを予定
 - 駐車場** 市民体育館、市役所柳川庁舎、柳川高校
 - 同時開催イベント** (公社)福岡県産業廃棄物協会による創作・体験コーナーや福岡県地球温暖化防止活動推進員によるパネル展示、クイズコーナー
 - 特典** 先着1000人に焼き海苔をプレゼント。午前9時30分から先着300人に、し尿処理施設「筑水園」のリサイクル肥料「育つくん」の無料引換券を配布
- 【問】クリーン連合会事務局(市生活環境課内)☎77・8485

よくあるお問い合わせ

Q 回収されたパソコンや小型家電はどのようにリサイクルされますか?

A 回収された小型家電から、金、銀、銅や鉄、アルミ、レアメタルを取り出して、資源として有効活用します。



柳川とっておき歴史の話 - 立花宗茂外伝 - 第13回

【問】市観光課観光推進係 ☎77・8563

立花直次、その本当の名前は?!

柳河藩立花家を語るうえで、藩祖宗茂に次いで欠かせない人物に、その弟・立花直次がいます。元亀3(1572)年、大友宗麟麾下の勇将・高橋紹運(鎮種)の次男として生まれた直次が、元服したおりに名乗った諱(実名)は「統増」でした。

彼は兄・宗茂に、己れの生涯を振り返られることになりました。

長男(嗣子)でありながら、「鬼道雪」こと、筑前立花城主の戸次道雪に乞われ、「立花」を継いだ宗茂にかわり、「高橋」を継いだ統増。彼も兄にならつてかどうか、「宗一」「重種」と諱を次々と改めています。

父・紹運にすれば、次男の統増を立花家へ養子入りさせ、決着をつけたかったのですが、当時、統増はまだ10歳。幼名の千若丸を名乗っていました。

道雪の娘・閻千代より3歳年下でしたから、おそらく彼女にやり込められてしまう、と紹運は危惧したのでしよう。現に閻千代は、

婿入りした宗茂をライバルと捉えた活気な女性でした。

その後、高橋家の嫡子として元服した統増は、九州を席捲する薩摩(現・鹿児島西部)の島津氏に備え、父・紹運の指示で筑前宝満城(現・福岡県太宰府市)に配されます。

天正14(1586)年7月、筑前岩屋城(現・福岡県太宰府市)に籠った父・紹運は、島津勢の猛攻で落命(享年39)。宝満城の将士も、華々しい最期をかざって、紹運のあとを追いたい、と願うのですが、統増は15歳。やむを得ず彼とその妻の生命の保障を取りつけ、島津勢に降伏することに――。

統増は薩摩へ送られますが、九州征伐を行う豊臣秀吉に与した兄・宗茂によって、無事に立花家へと戻されました。

豊臣政権下では、宗茂の柳河入府に伴い、統増は筑後三池郡(現・福岡県大牟田市)を領有。

のちに関ヶ原の合戦において、兄ともども改易となった統増は、

長く肥後(現・熊本県)に寓居を構え、「道白」と号して隠棲します。その後、兄の徳川家への仕官により、二代将軍・秀忠から常陸国(現・茨城県の大牟)に5千石を拝領。慶長末期には姓を「高橋」から「立花」に改め、実名を「直次」としました。

元和3(1617)年7月19日、46歳で没した直次は、江戸下谷広徳寺に埋葬されます。

彼の家は長男の種次が継ぎ、筑

後国三池郡1万石に移封され、三池藩が成立しました。

さらに2代柳河藩主には、直次の四男・忠茂が入っています。ちなみに、これまでの歴史書では決まって、「高橋直次」とされてきましたが、厳密には彼は、この名前を名乗ったことが、史上に一度もなかった、ということになります。

■文II 加来耕三 (つづく)



紹運寺(大牟田市今山)
(立花直次の長男、三池藩初代藩主立花種次が建立)